

みぶし地史

「戦時回覧板」を読む

— 地域史料から、戦争の歴史を学ぶ —

(その5)

中畑 和彦

はじめに

二〇一九(令和元)年十二月、中国で最初に感染が確認されたのが、新型コロナウイルスである。その後、日本を含め世界的大流行(パンデミック)となったが、今日では感染が下火になったとは言え、新たな変異株が生まれ、依然として人々の健康に脅威を及ぼし続けている。

今回は、三良坂町に残されてきた「戦時回覧板」の中から、伝染病(現在では「新型コロナウイルス感染症」のように「感染症」と呼ばれている)に関するものを紹介するとともに、その流行や対策について他の地域史料と合わせて振り返ってみたい。

江戸末期から明治時代にかけて、当時の人々が恐れていたコレラの感染について、次のように書かれたものがある。

安政五年六月十九日に日米修好通商条約が調印さ

第129号
2026.4.1

三次地方史研究会発行

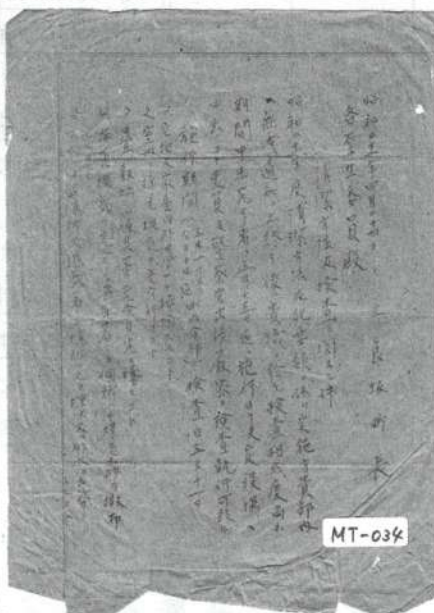
- ・「戦時回覧板」を読む
— 地域史料から、戦争の歴史を学ぶ —
(その5) 中畑 和彦
- ・寄貝古墳群付近出土の須恵器埴輪
三次地方に關係する 加藤 光臣
- ・史料紹介
江戸から明治へ
村の年貢はどう変わったのか 中畑 和彦

れて、鎖国は終わった。しかし、それより一カ月前の五月二十一日(陽曆七月一日)、上海から長崎港に入港したアメリカ船「シシッピ」号の船員がコレラに感染していた。船員が長崎の出島に上陸してから約十日後の六月二日に、二十人から三十人のコレラ患者が発病した。コレラはまたたく間に長崎市内に広がった①。

日本が明治以後、開港によって人の行き来が活発になる中で伝染病の感染が国内にもたらされ、広がったことが分かる。それは明治から昭和にかけて、さらに深刻な状況となり、そのための予防や対策等が講じられていったのである。

一、伝染病の原因と予防・対策

伝染病は各種病原体(細菌・ウイルス・真菌・寄生虫・原虫など)の感染によって生じる病気であり、一旦感染が広がれば多数の患者や死者が出るため、洋の東西を問わず、古くから恐れられてきた。従ってその予防や対策も進められてきたのである。三良坂町の「回覧板」には、次のようなものがある。戦後、昭和二十一年(一九四六)年四月二十四日に出された「清潔方法及検査に関する件」【MT-034】とゆうものである。



昭和二十一年四月二十四日 三良坂町長 【MT-034】
各厚生委員殿

清潔方法及検査に関する件

- 昭和二十一年度清潔方法、左記要領に依り実施方貴部内へ無洩通知の上、終了後は貴職に於て検査相成度、尚ほ期間中未完了者は、五月十五日迄に内へ無洩通知の上終了後は、貴職に於て検査相成度、尚ほ期間中未完了者は五月十五日迄に施行日を決定、役場へ申出のこと、吏員及警察官出張厳密に検査執行可致候
- 施行期間 五月一日より 町内全部 検査日 五月十一日
同月十日迄
1. 宅地及家屋内外洩れなく掃除すること
 2. 室内の採光、換気を充分行ふこと
 3. 畳、敷物、寝具等充分日光に曝すこと
 4. 床下は換気を充分にし、湿気著しき箇所は干(乾)燥せる土砂を撤布すること
 5. 汚水停留所、又湿気著しき場所は之を埋め、又は排水を充分にすること

戦後はこのように伝染病を予防するために強制的な